

鶴ヶ島駅周辺地区まちづくり構想 (案)

令和5年2月

鶴ヶ島市

<目次>

序章 はじめに.....	1
1. まちづくり構想策定の目的	1
2. まちづくり構想の位置づけ.....	1
3. まちづくり構想の対象範囲	1
4. まちづくり構想の策定経緯	2
I章 地区の現況整理	4
1. 地区の概況	4
2. 市民アンケート.....	8
3. 団体ヒアリング.....	10
4. まちづくりワークショップ.....	11
II章 まちづくりの主要課題	13
III章 鶴ヶ島駅周辺地区の将来像	18
IV章 まちづくりの4つの方針.....	20

序章 はじめに

1. まちづくり構想策定の目的

市では、鶴ヶ島駅周辺地区の生活環境の向上及び地域の活性化を図ることを目的に、「鶴ヶ島駅周辺地区まちづくり構想(以下「まちづくり構想」といいます。)」を策定します。

今後、まちづくり構想に基づいて鶴ヶ島駅からガーデンパークまでのエリアを中心としたまちづくりを進め、その効果を市全域に波及させることにより、多様な人々の交流を生み出す魅力ある地域社会をつくり、将来にわたって市の活力を維持することを目指します。

2. まちづくり構想の位置づけ

鶴ヶ島駅周辺地区は、市の都市づくりにおける基本的な方針を示した「鶴ヶ島市都市計画マスタープラン」においては、日常生活利便性の向上を地区づくりの目標としており、駅前という地域特性を生かし、商店街の利便性向上やにぎわいの創出・交通安全性の向上により、活気のある地域の中心的地域拠点の形成を図るほか、駅へのアクセス道路である鶴ヶ島駅通りの安全性の向上を図ることとしています。

「鶴ヶ島市立地適正化計画」においては、周辺地域のニーズや産業拠点(圏央鶴ヶ島 IC 周辺)への通勤者のニーズ(今後、産業拠点への通勤者の利用増加が想定される)に対応した都市機能の維持充実を図ることとしています。また、自治会の集会所となっている市有地を活用し、老朽化した公共施設の再編及び複合化を図ることとしています。

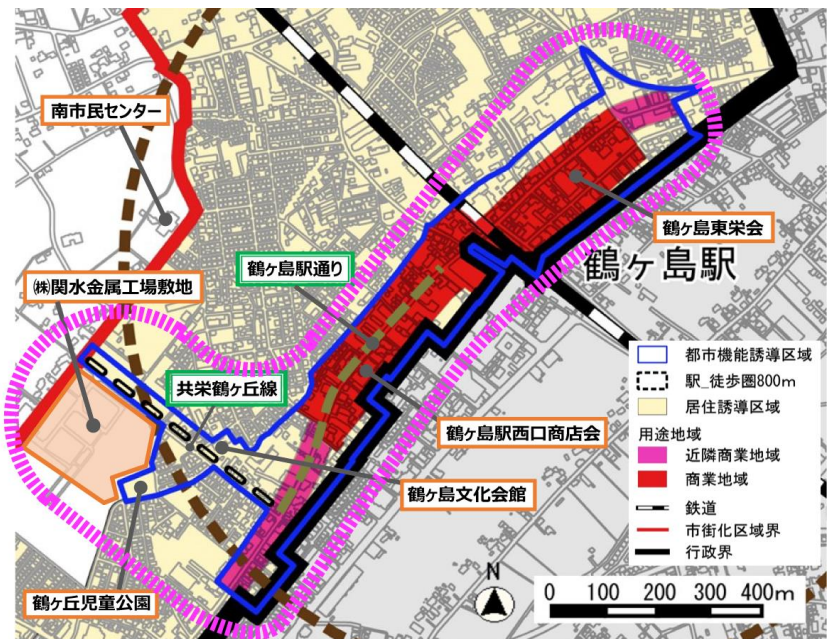
<関連計画>

- ・第6次鶴ヶ島市総合計画
- ・鶴ヶ島市都市計画マスタープラン
- ・鶴ヶ島市立地適正化計画
- ・鶴ヶ島市公共施設等総合管理計画
- ・鶴ヶ島市公共施設個別利用実施計画

3. まちづくり構想の対象範囲

まちづくり構想では、「鶴ヶ島市立地適正化計画」において設定している、鶴ヶ島駅周辺の都市機能誘導区域を基本として、隣接するガーデンパーク(※)等を含む周辺エリアを対象範囲とします。

※「株式会社関水金属の工場敷地内の緑地」と「鶴ヶ丘児童公園」の一体的な再整備により創出される公園・緑地のこと



《都市機能誘導区域(生活に必要なサービスを集約して利便性向上を目指す区域)の設定範囲【立地適正化計画より】》

4.まちづくり構想の策定経緯

まちづくり構想の策定にあたり、地域住民や関係団体等の意見をうかがいながら課題やニーズを把握するため、①説明会、②市民アンケート、③団体ヒアリング及び④まちづくりワークショップを実施しました。

(1) 説明会

鶴ヶ島駅周辺地区まちづくりの概要等について説明を行いました。 ※第2回も追記予定

- ・ 日時:令和4年8月21日(日)14時～
- ・ 場所:鶴ヶ島市役所5階 504会議室
- ・ 内容:鶴ヶ島駅周辺地区まちづくりの概要や、鶴ヶ島駅周辺地区の現状・課題など
- ・ 参加者:16名



(2) 市民アンケート

鶴ヶ島駅周辺地区在住の満16歳以上の方から 2,000 人を無作為抽出し、調査を実施しました。

- ・ 対象:鶴ヶ島駅周辺地区在住の満16歳以上の方から 2,000 人を無作為抽出
- ・ 調査方法:郵送又はインターネットによる回答
- ・ 調査期間:令和4年8月8日～8月31日
- ・ 回答数:840票(郵送回答:665票、インターネット回答:175票)
- ・ 回答率:42.0%

(3) 団体ヒアリング

関係団体へのヒアリングを実施し、まちづくりに対する意見等をうかがいました。

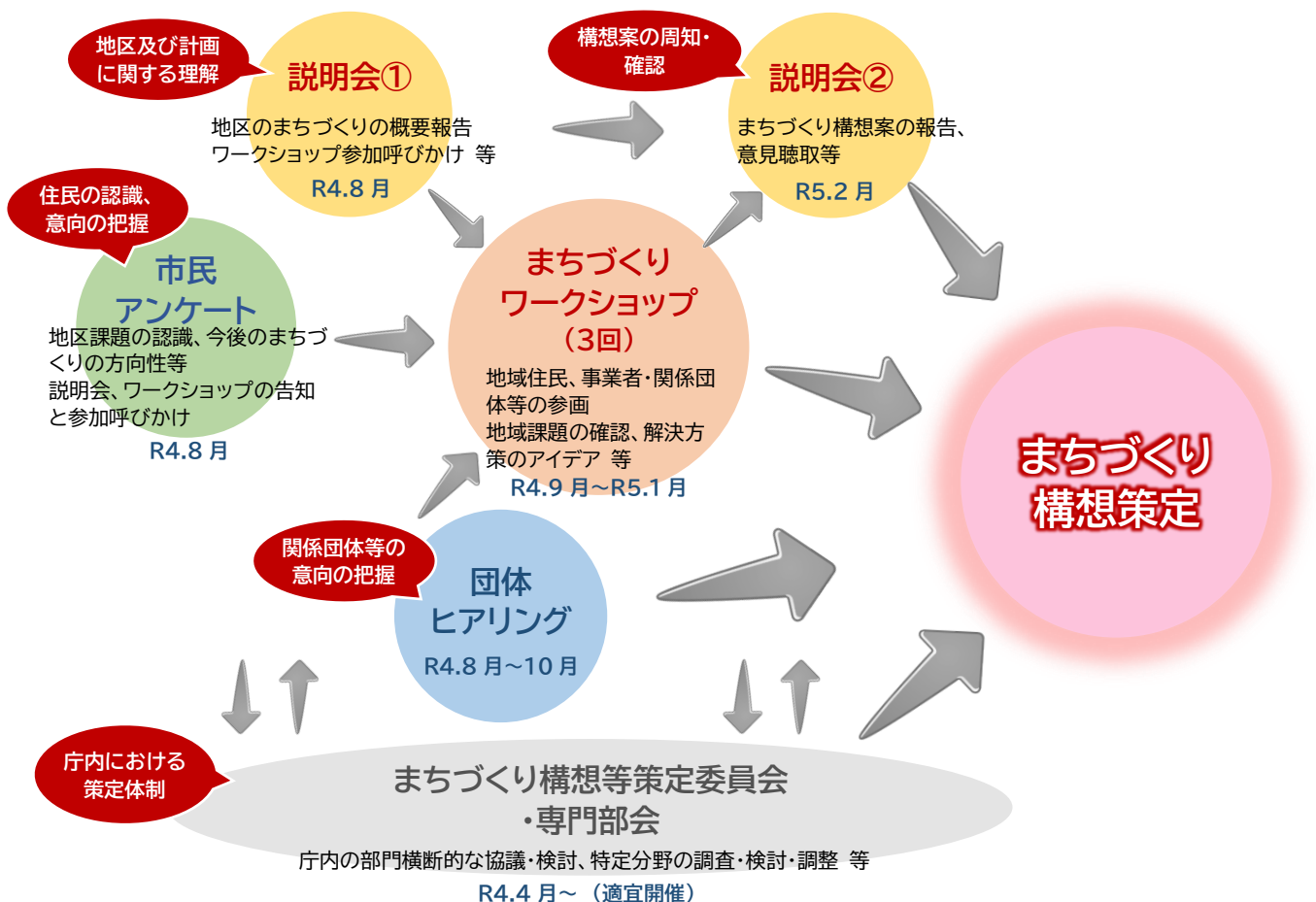
- ・ ヒアリング先:9団体
鶴ヶ島文化会館運営委員会(鶴ヶ丘第一・二・四・五・六自治会)、
鶴ヶ島駅西口商店会、鶴ヶ島市商工会、鶴ヶ島市異業種交流会「スクラム 21」、
鶴ヶ島第二小学校 PTA、NPO 法人鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会、
(株)地域デザインラボさいたま、(株)武蔵野銀行、東洋大学理工学部建築学科
- ・ 実施期間:8月下旬～10月中旬

(4) まちづくりワークショップ

鶴ヶ島駅周辺地区の現状・課題や今後のまちづくりの方向性について意見交換を行いました。

- ・ 対象：地域住民、地域団体及び関係事業者
- ・ 場所：南市民センター集会室
- ・ 協力：東洋大学理工学部建築学科

回数	実施日・参加者	内容
第1回	令和4年9月11(日) 20名	まち歩きを行い、地区を取り巻く現状・課題について確認・意見交換
第2回	令和4年11月13(日) 48名(市民参加22名、 学生参加26名)	まちづくりの方向性、整備のあり方等について意見交換
第3回	令和5年1月15(日)	地区の将来像、将来イメージ等について意見交換



I 章 地区の現況整理

1. 地区の概況

(1) 鶴ヶ島駅周辺地区の歴史

鶴ヶ島駅周辺地区は、昭和7年の鶴ヶ島駅開業、戦後(昭和20年以降)の開拓を経て、市内でも早い時期に市街化が進行し、古くから鶴ヶ島市の活力をけん引してきました。

《昭和57年の鶴ヶ島駅付近》



《鶴ヶ島市及び鶴ヶ島駅周辺地区の変遷》

	鶴ヶ島市全体の変遷	鶴ヶ島駅周辺地区の変遷
昭和初期～	純農村として発展	鶴ヶ島駅開業
昭和20年～		鶴ヶ丘地区の開拓
昭和35年頃～	工場進出や住宅地造成により人口が急増	
昭和41年	町制施行(鶴ヶ島村から鶴ヶ島町へ)	「鶴ヶ島駅周辺地域については既に市街化しつつあり、特に民間の住宅地造成により、駅の至近地区は市街化が著しい」との記録あり(鶴ヶ島町総合計画より)
昭和55年～	主に「若葉駅周辺」「一本松駅周辺」「鶴ヶ島IC周辺」「圏央鶴ヶ島IC周辺」の地区で土地区画整理事業による市街地整備が進む	

《昭和50年前後における鶴ヶ島市の市街地形成状況》



昭和50年前後の鶴ヶ島市及びその周辺では、坂戸駅、霞ヶ関駅や鶴ヶ島駅周辺において早い段階から市街地が形成されてきたことがうかがえます。

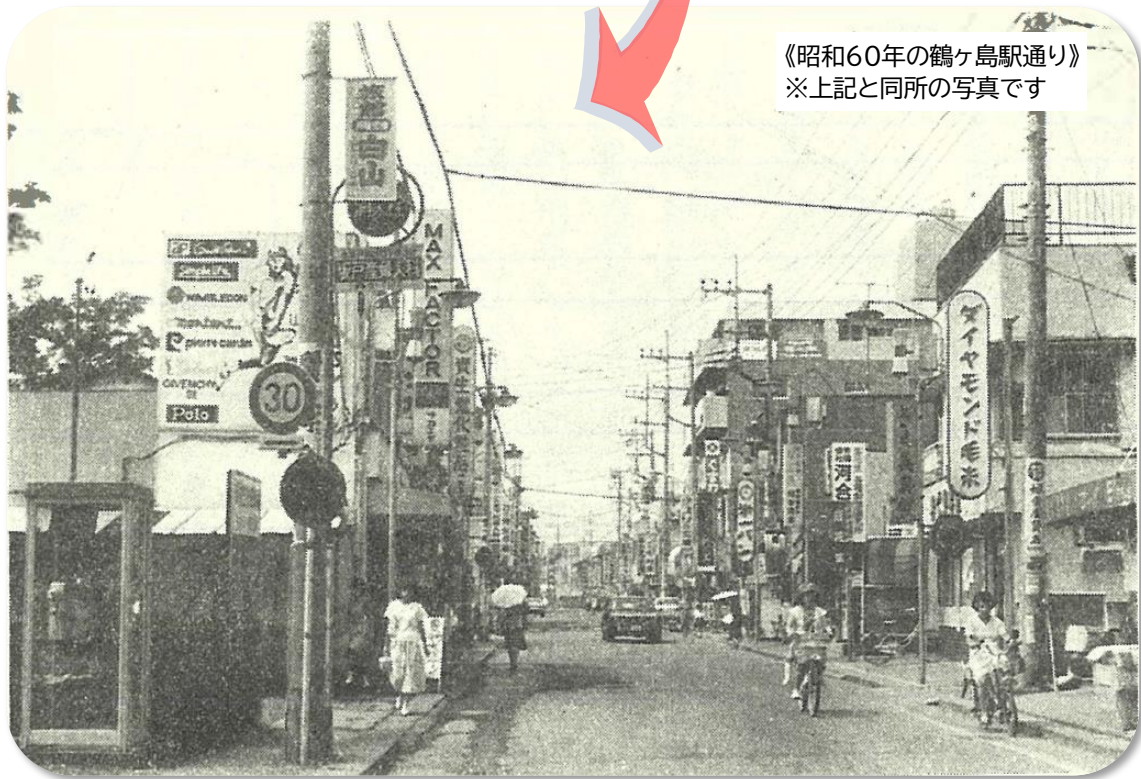
※ 人口集中地区 (昭和45年) 行政界(現在)

昭和49年～昭和53年頃の航空写真(出典:国土地理院)

※人口集中地区:国勢調査で設定される統計上の地区。多くの人口(5,000人以上)が高い密度(40人/ha以上)で住んでいる地区で、市街地の規模を示す指標として使用されています。

ミニコラム：鶴ヶ島駅通り沿道の商店街の今昔

鶴ヶ島町史によると、昭和50年以降に鶴ヶ島町の商店数・従業員・年間販売額が著しく増加したとの記録があります。写真を見ても、昭和60年頃には現在の商店街の原形が形づくられていたことがうかがえます。

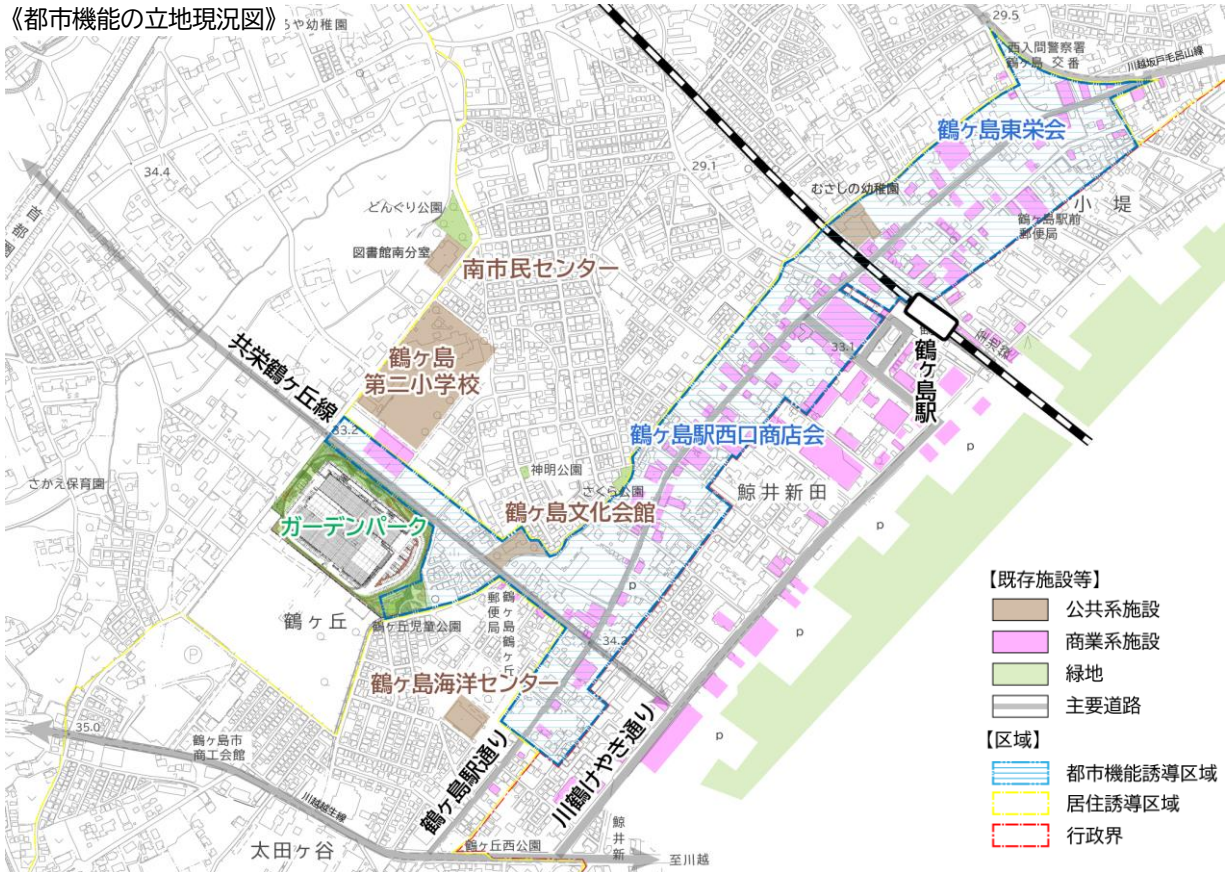


出典：鶴ヶ島町史 通史編

(2) 鶴ヶ島駅周辺地区の現在 《鶴ヶ島駅周辺地区の施設立地状況》

①都市機能の立地状況

鶴ヶ島駅周辺地区には、鶴ヶ島駅通り沿道に商店街が形成され、駅前に生活利便施設が立地するなど高い商業集積が見られます。公共公益施設も立地しており、暮らしやすい地区といえます。



ミニコラム：ガーデンパークの整備概要

市と関水金属は、官民連携事業として、工場敷地内の緑地と鶴ヶ丘児童公園の一体的な再整備を進めており、令和6年度中にガーデンパークとしてリニューアルオープンを目指しています。

《ガーデンパークの特徴》

○機関車の展示・走行

- 敷地内に線路を設け、イベントなどの際に、同社が所有する機関車(軽便鉄道)を走行させます。

- 公園内に設置する機関庫(車庫)の中に機関車を展示・保管することで、いつでも本物の機関車と触れ合えるようにします。

○ナチュラルガーデン

- 植物が本来持つ自然な美しさを最大限に生かす「ナチュラルガーデン」をコンセプトに整備します。
- 地域住民と一緒に育て、地域に根差した「みんなの庭」となるような公園を整備します。



《ガーデンパークの完成イメージ図》

②人口の動向

市内でも早い時期に市街化が進行した地区ですが、現在でも、鶴ヶ島駅通りや共栄鶴ヶ丘線周辺では人口が増加傾向にあります。

一方、地区全体で高齢化が進行しており、上広谷の住宅地でその傾向が顕著です。また、上広谷や鶴ヶ丘の住宅地、鶴ヶ島駅通り周辺では、年少者数(15歳未満人口)が減少傾向にあります。

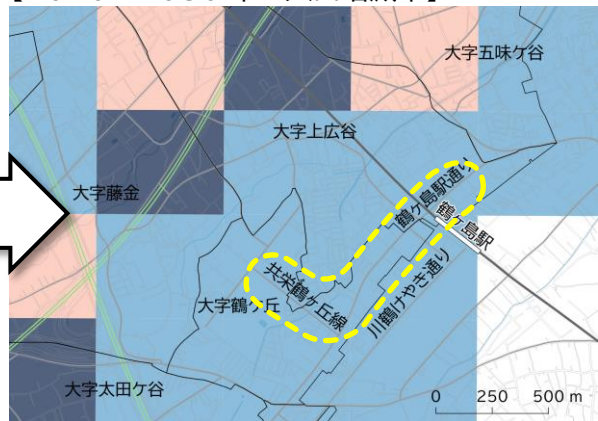
将来人口の見通しをみると、地区全体で更なる人口減少・少子高齢化が進行する見込みです。

《総人口の直近の動向と将来見通し》

【2015～2020年の人口増減率】



【2020～2030年の人口増減率】

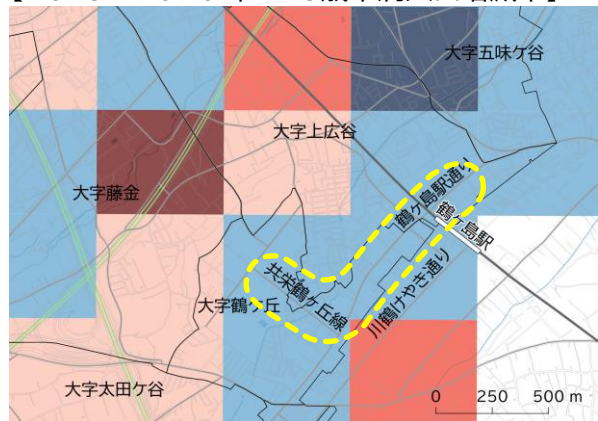


《年齢別人口の直近の動向》

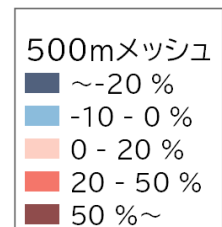
【2015～2020年の65歳以上人口増減率】



【2015～2020年の15歳未満人口増減率】



出典:国勢調査(2020年)、国立社会保障・人口問題研究所(平成30年3月推計)



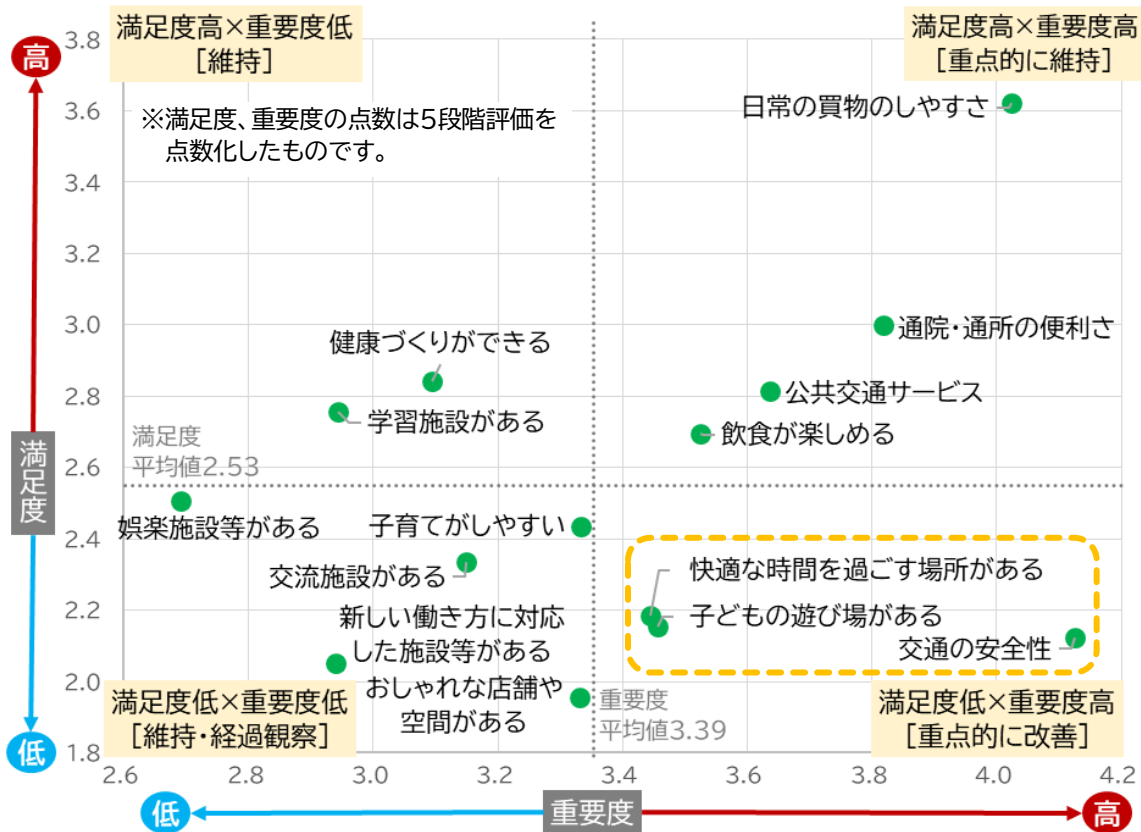
2.市民アンケート

地域住民の意向をまちづくり構想に反映するため、鶴ヶ島駅周辺地区在住の方を対象にアンケート調査を実施しました。

調査対象	対象地区在住の満16歳以上2,000名
調査方法	郵送又はインターネットによる回答
調査期間	令和4年8月8日～8月31日
結果概要	回答数840票、回答率42.0%

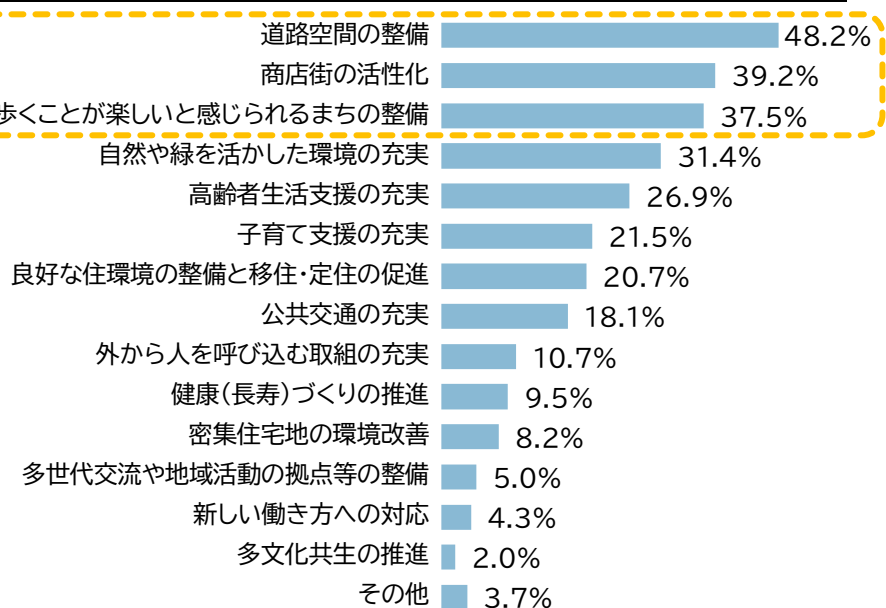
(1) 鶴ヶ島駅周辺地区の現状に対する評価(満足度と重要度) ※それぞれ5点満点

満足度が低く、重要度が高い重点的に改善が必要な項目として、「快適な時間を過ごす場所がある」「子どもの遊び場がある」「交通の安全性」が挙げられています。



(2) 鶴ヶ島駅周辺地区の将来に向けた今後の取組について重要と思われるもの

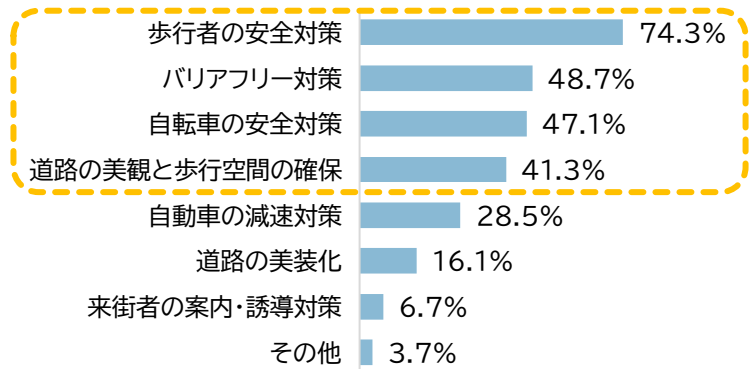
「道路空間の整備」が5割と最も高く、次いで「商店街の活性化」、「歩くことが楽しいと感じられるまちの整備」が4割となっています。



(3) 具体的な整備の方向性・考え方

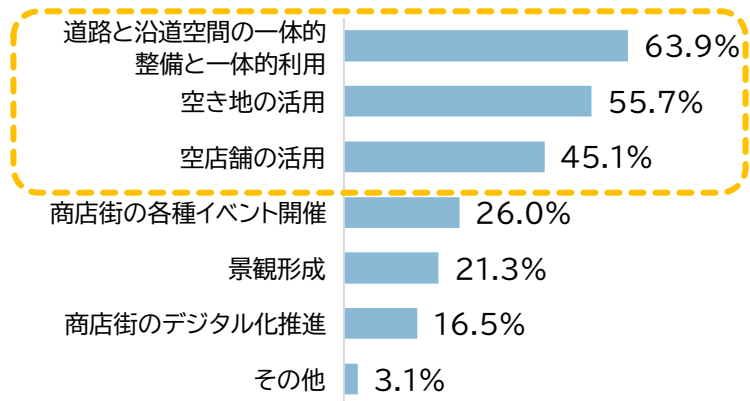
①道路(鶴ヶ島駅通り、共栄鶴ヶ丘線など)空間の整備について重要と思われるもの

道路空間の整備について重要と思われるものとして、「歩行者の安全対策」が7割と最も高く、次いで「バリアフリー対策」、「自転車の安全対策」が5割、「道路の美観と歩行空間の確保」が4割となっています。



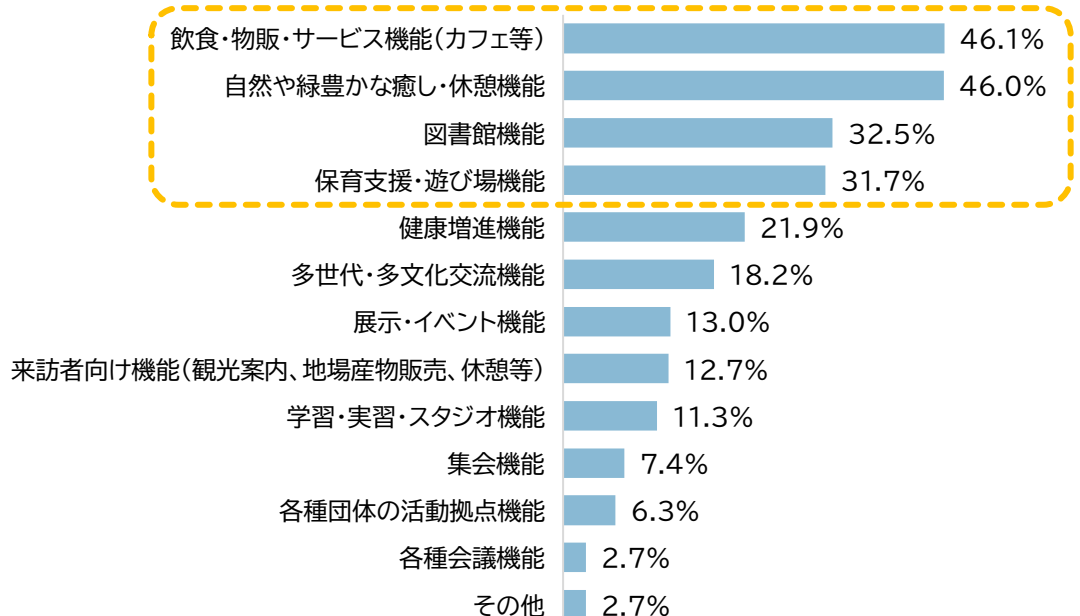
②鶴ヶ島駅前及び鶴ヶ島駅通り沿道地区(商店街)の活性化について重要と思われるもの

「道路と沿道空間の一体的整備と一体的利用」が6割と最も高く、次いで「空き地の活用」、「空店舗の活用」が5割となっています。



③新しい公共施設(地域交流センター等)の整備について重要と思われるもの

「飲食・物販・サービス機能」、「自然や緑豊かな癒し・休憩機能」が5割と高く、次いで「図書館機能」、「保育支援・遊び場機能」が3割となっています。



3. 団体ヒアリング

鶴ヶ島駅周辺地区で活動している地域団体や商工関係団体等を対象に、ヒアリングを実施しました。

地域団体	鶴ヶ島文化会館運営委員会(鶴ヶ丘第一・二・四・五・六自治会) 鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会(NPO法人) 鶴ヶ島第二小学校PTA
商工関係団体	鶴ヶ島市商工会、鶴ヶ島市異業種交流会「スクラム21」 鶴ヶ島駅西口商店会
その他	株式会社地域デザインラボさいたま 株式会社武蔵野銀行 東洋大学理工学部建築学科

(1) 生活環境について

- 子育て世代は、子どもの安全が何より大切である(交通安全、防犯の両面から)。
- 子どもの安全を守るため、各家庭にアンケートを行い、危険箇所をまとめた交通危険マップの作成を進めている。
- 高齢者が増えている。外出しやすい環境づくりや、利用しやすい施設が欲しい。

(2) 道路交通・歩行者交通について

- 鶴ヶ島駅通りの歩行者の安全確保が課題である。車が速度を出しにくい仕掛けが欲しい。
- 鶴ヶ島駅通りを歩きやすい通りとすることが必要である。道を広げるのは難しいが、電線類の地中化などはできるのではないか。
- 共栄鶴ヶ丘線と鶴ヶ島駅通りの交差点は見通しが非常に悪く危険であり、改善が必要。

(3) 地区の活性化について

- 商店の事業継続(高齢化、後継者不足)や空き店舗の活用等が課題である。
- 商業者や事業者の中で担い手づくりを進めて事業を展開することも考えられる。
- ガーデンパークの整備に合わせて、鶴ヶ島駅通りのネーミングを公募などでキャッチーな名称に変えることで、商店街に対する親しみや注目が高まると考える。

(4) 公共施設について

- 文化会館は、自治会の集会所と備蓄場所として使用している。南市民センターと複合化しても、自治会が優先して使用できるようにして欲しい。
- 駐車場が足りない(地域交流センター及びガーデンパークの両方とも)。

4.まちづくりワークショップ

鶴ヶ島駅周辺地区の現状・課題について意見交換を行うため、ワークショップを開催しました。

(1) 鶴ヶ島駅通り

【強み・魅力】

商店街	● 昔ながらの商店街でお店の人が温かく、店舗が多い。
イベント	● 7月開催のサマーカーニバルは2～4万人が集まり、にぎやかになる。
空き店舗	● 空き店舗、空き家や低未利用地など地域の資源を有効活用できるとよい。
駅への一本道	● 鶴ヶ島駅前まで一本道で行くことができる。

【弱み・問題点】

歩行者交通	● 歩道がなく、ベビーカーや車いすで通りにくく、親子が手を繋いで歩けない。 ● 横断歩道がもう少しあったほうがよい。
道路交通	● 朝夕は混雑し、早朝には車がものすごいスピードで走っていて危険。 ● 標識が民家の樹木で見えづらい場所がある。
ゴミステーション	● 店前が乱雑だったり、ゴミが散乱していたり、ゴミ置き場対策が必要。



(2) 共栄鶴ヶ丘線

【強み・魅力】

ガーデンパークとの連携	● ガーデンパークと隣接しており、緑豊かで開放感がある気持ちのよい道になりそう。 ● 工事パネルの子どもの絵の展示がすばらしい。
歩行環境	● 関水金属が地域に開放している歩道は車いすでも通れる広さがある。

【弱み・問題点】

歩行者交通	● 歩道がない区間があり、危険。
道路交通	● 鶴ヶ島駅通りの交差点～郵便局周辺は道が狭く、幅員を広げる必要がある。 ● 鶴ヶ島駅通りの交差点の見通しが悪い。スピードを出す車が多く危険。



(3) 鶴ヶ島文化会館

【強み・魅力】

地域の拠点	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域コミュニティの活動拠点として、人が集まりやすく、今後も活用できる。 ● 住民の拠り所となる施設になるとよい。
立地環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 公園や駅が近く立地がよい。 ● 鶴ヶ丘神社が敷地内にある。



【弱み・問題点】

施設整備	● 施設が老朽化している。敷地が狭く、駐車場が小さい。
------	-----------------------------

(4) ガーデンパーク

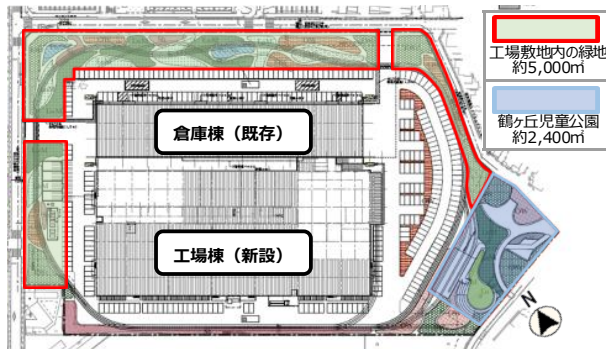
【強み・魅力】

自然・景観	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然の豊かさ(空、山々、木々)があり、富士山が見えるスポット。 ● 親子が近場で利用できるホッとさせる緑地、公園の樹木が増えるとよい。
用水路の活用	● 用水路を通路や水辺として活用できるとよい。
一体的な利用	● 企業と地域が連携して一体的に利用することができる。
児童公園	● 住民・子どものための遊具、自転車の練習ができるような広場になるとよい。

【弱み・問題点】

地元への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● イベント時に来訪者の路上駐車や住宅地への通過交通が心配。 ● 全国から人が来ることに対する対策を事前に立てる必要がある。
維持管理	● 植栽の維持管理にお金がかかることが懸念される。

ガーデンパークのゾーニング図



(5) その他

【強み・魅力】

コンパクトなまち	● 公共施設、公園、ガーデンパーク、商店街など様々な機能が集積している。
住環境のよさ	● 閑静な住環境。

【弱み・問題点】

道路交通	<ul style="list-style-type: none"> ● 細い道の交差点にミラーがあるとよい。 ● 市道229号線(※)はスピードを出す車が多く危険。 ※ 鶴ヶ島第二小学校と南市民センターに面している道路
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 住宅が密集しており、道路整備などに必要な用地の取得が困難。 ● 高齢化の進行により空き家が増加する可能性がある。

II章 まちづくりの主要課題

鶴ヶ島駅周辺地区の現況整理を踏まえ、当地区のまちづくりの主要課題を整理します。

道路交通の安全性向上

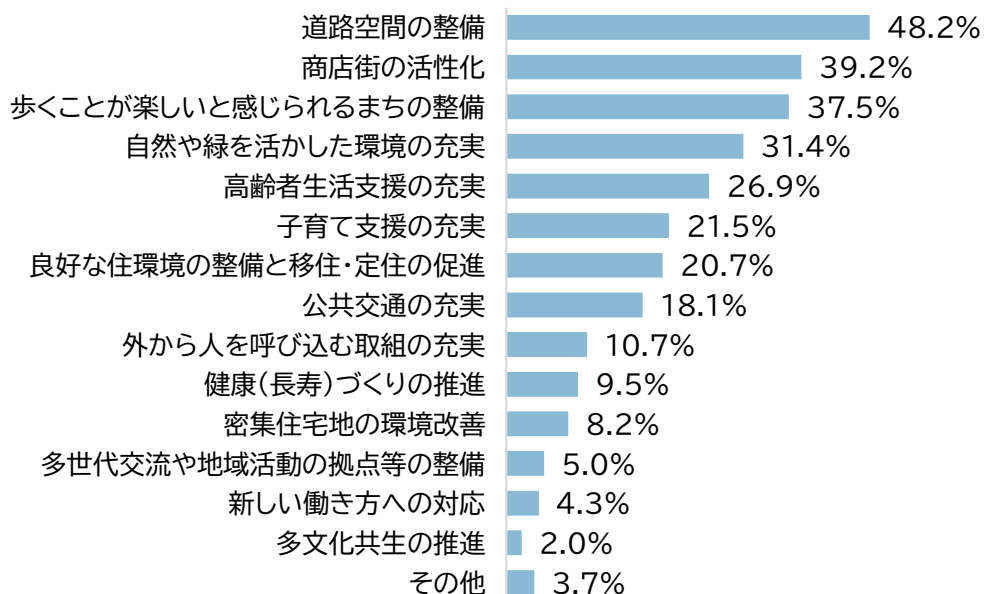
《現況・市民意見等》

- 当地区は、市内でも早い時期に市街化が進行し、商業地として古くから本市の活力をけん引してきた一方で、道路基盤の整備が立ち遅れている状況にあります。
- ワークショップでは鶴ヶ島駅通り、共栄鶴ヶ丘線や生活道路など「道路交通」を弱み・問題点として挙げる意見が多く、市民アンケートでは今後の取組として「道路空間の整備」を望む声が最も多くありました。また、地域住民の交通安全に対する問題意識は高く、子どもの安全を守る交通危険マップの作成を地域主体で進めているところです。

《課題》

- 以上を踏まえ、道路空間整備や局所的な危険箇所の改善などのハード面の対策から、通過交通の過度な進入や速度を抑制する交通安全対策などのソフト面の対策まで、ハード・ソフトの両面から道路交通の安全性向上に取り組む必要があります。

《鶴ヶ島駅周辺地区の将来に向けた今後の取組について重要と思われるもの(再掲)》



快適で歩きやすい 歩行空間の確保

《現況・市民意見等》

- 当地区は、スーパーなどの生活利便施設、商店街、公共施設や公園など、様々な機能が歩いて行ける範囲にコンパクトに集積しており、暮らしやすい環境が整っています。
- 一方で、多くの道路は幅員が狭く、歩道が整備されていないため、歩いて暮らすための交通環境が十分に整っていない状況です。鶴ヶ島駅通りや共栄鶴ヶ丘線では、民地側で歩行空間を提供いただいている歩きやすい箇所もありますが、連続した歩行空間が確保されていないのが実状です。
- ワークショップでは「親子が手をつないで歩けない」という意見が挙げられ、アンケートでは今後の取組として「歩くことが楽しいと感じられるまちの整備」を望む声が多くありました。さらに、当地区は高齢化が進行しており、高齢者が安心して外出し、健康維持や社会参加できる環境を整えていくことも求められています。

《課題》

- 以上を踏まえ、地区内の交通環境を従来の“車”中心から“人”中心に転換し、子どもから高齢者まで、快適で歩きやすい歩行空間を確保していくことが必要です。

《歩道がなく交通が集中する鶴ヶ島駅通り》



《車いすで通りにくい歩行環境》



商店街の魅力向上とにぎわい創出

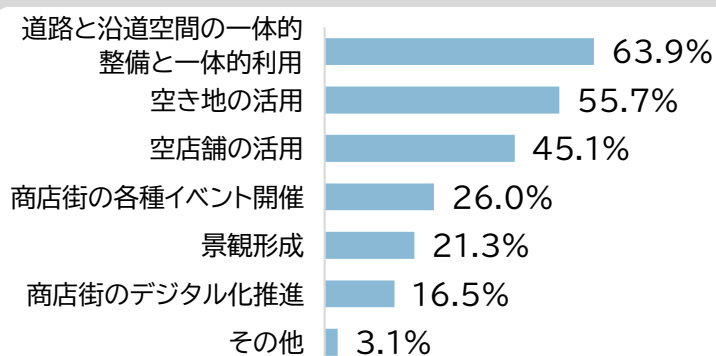
《現況・市民意見等》

- 当地区では、鶴ヶ島駅通り沿道において、鶴ヶ島駅西口商店会、鶴ヶ島東栄会が東西に連なり一体的な商店街を形成しています。
- 個性的な商店が立地し、また、商店街を歩行者天国にして開催されるサマーカーニバルには多くの人が集まるなど、商店街がこのまちの個性や魅力を形づくっています。
- 一方、店主の高齢化や後継者不足を背景とした商店の事業継続や、店舗併用住宅ゆえの空き店舗活用の難しさも課題として顕在化しつつあります。また、アンケートにおいては、商店街の活性化に向けて「道路と沿道空間の一体的整備・利用」を期待する声も多く挙げられています。

《課題》

- 以上を踏まえ、商店街の新たな担い手づくり、ガーデンパークと連携した商業振興策、道路と沿道空間の一体的整備・利用の検討など、更なる商店街の魅力向上とにぎわい創出に向けて取り組んでいく必要があります。

《鶴ヶ島駅前及び商店街の活性化について重要と思われるもの(再掲)》



ガーデンパークの利活用

《現況・市民意見等》

- 市と関水金属は、官民連携事業として、工場敷地内の緑地と鶴ヶ丘児童公園の一体的な再整備を進めており、令和6年度中にガーデンパークとしてリニューアルオープンを目指しています。
- ガーデンパークは、当地区の新たな憩いや交流の拠点となることが期待されており、ワークショップにおいて、様々な利活用案が意見として挙げられました。
- 一方、ガーデンパークへの来訪者の増加による交通量の増大など、居住環境への悪影響を懸念する声も多く挙げられています。

《課題》

- そのため、ガーデンパークが地域の方々に喜ばれる拠点となるよう、ガーデンパークをどのように利活用していくべきか、来訪者のアクセス手段や経路をどのように考えるべきか、また、周辺のまちづくりとどのように連携を図るべきか、地域住民、企業、行政が対話・連携しながら、今後の活用方策を考えていくことが必要です。

《ワークショップにおける意見(再掲)》

【期待の声】

- ・住民や子どもが利用できる広場になるとよい
- ・用水路を通路や水辺として活用できるとよい

【懸念の声】

- ・来訪者の路上駐車や住宅地への通過交通が心配
- ・全国から人が来ることに対する事前対策の検討が必要

新たな交流拠点の整備

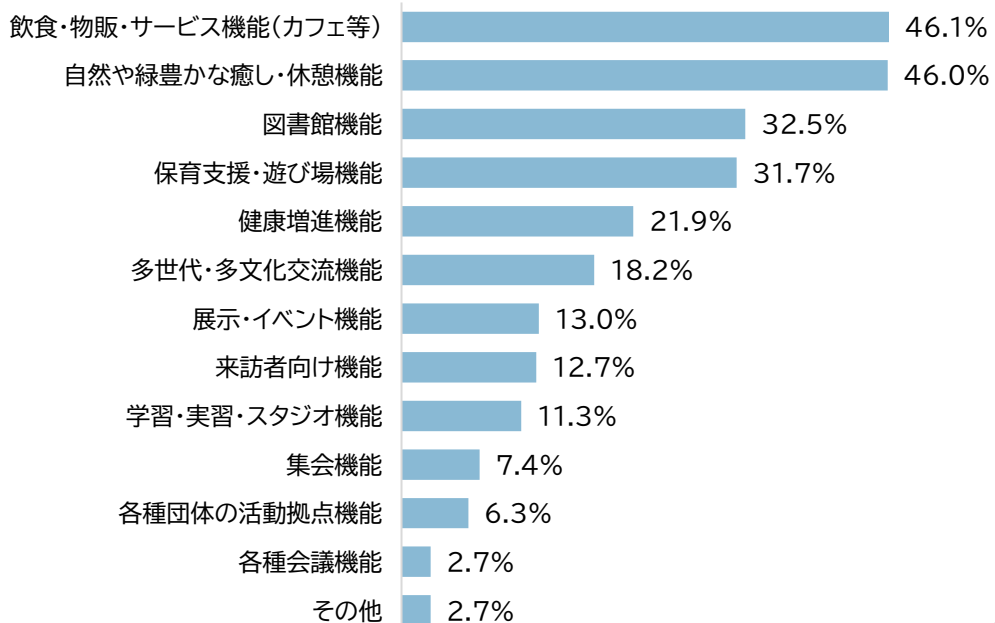
《現況・市民意見等》

- 当地区に立地する南市民センター、鶴ヶ島文化会館は、人口が急増した昭和50～60年代に建設され、これまで、子どもから高齢者まで幅広い年代に活用され、また、地域コミュニティの活動を支える施設としてその役割を果たしてきました。
- 一方、南市民センターは建設から約40年、鶴ヶ島文化会館は約50年を経過し、建物・設備の老朽化が進んでいます。また、南市民センターは借地となっており、施設の維持費に多大な負担が生じています。
- これらの現状を踏まえ、市では「鶴ヶ島市公共施設等総合管理計画」において、南市民センターを当地区の都市機能誘導区域内の市有地へ移転・新築することとしています。

《課題》

- そのため、施設の更新時期に合わせて、2施設を1施設に統合・複合化し、新たな交流拠点の整備を進めていくことが必要です。施設の機能は、団体ヒアリングでは「自治会の集会所及び備蓄場所」としての既存機能の維持、アンケートでは「飲食・物販・サービス機能」など新たな機能の導入を求めるニーズが高くなっており、地域住民の幅広いニーズを踏まえ、施設の整備内容を具体化していくことが必要です。

《新しい公共施設(地域交流センター等)の整備について重要と思われるもの(再掲)》



歩きたくなる

くつろぎとにぎわいのまち

鶴ヶ島駅周辺地区では、今後、更なる人口減少・少子高齢化の進行が見込まれます。

そのため、安全で快適な歩行空間の創出や魅力ある商店街づくり等により、居心地の良い、歩行者中心の充実した暮らしの確保を図ります。また、ガーデンパークの活用や新たな交流拠点の整備等により、地域住民をはじめとした人々の憩い・交流・にぎわいが創出されるよう、様々な関係者が協働しながら一体的なまちづくりに取り組みます。

そして、鶴ヶ島駅周辺地区がいつまでも活力にあふれ、誰もが笑顔になり、安心して住み続けられる、そんな好循環が生まれるまちを目指します。



鶴ヶ島駅通りの将来イメージ

IV章 まちづくりの4つの方針

鶴ヶ島駅周辺地区のまちづくりの主要課題を受けて、将来像を実現するためのまちづくりの方針を示します。

【■ソフト施策】【■ハード整備】

安全で居心地が良く歩きたくなる道路空間の形成

安全な道路環境の整備【鶴ヶ島駅通り】

■速度抑制対策等による安全で質の高い道路リニューアルの推進

道路整備の推進【共栄鶴ヶ丘線】

■安全性向上に向けた道路整備の推進

快適な歩行空間の確保

- 道路美化活動の推進
- 地域における交通安全対策の充実
- ユニバーサルデザインに配慮した安全な歩行空間の整備
- テーマ性を持った良好な景観形成

生活を支え活力を生み出す魅力ある商店街づくり

商店街のにぎわい創出と空間の一体化

- イベント(歩行者天国)の開催等によるにぎわい空間の形成
- 空き店舗・未利用地等の活用促進
- 沿道空間等の利活用による一体的な歩行空間の整備

玄関口としての機能充実

- 来訪者の回遊性を高めるための仕掛けづくり
- 商店街やガーデンパーク等と連動した玄関口づくり

地域と一体となったガーデンパークの活用

地域住民が日常利用できる公園づくり

- 子どもから高齢者まで誰もが集える公園づくり
- 公園・緑地を活用した地域住民の地域活動や健康づくりの促進
- 誰もが快適に過ごすためのルールづくり
- 利便性向上や防犯に向けた取組
- ナチュラルガーデンの育成を通じた豊かな生活環境の創出

イベント実施等による特別利用

- 鉄道やナチュラルガーデンをテーマとした事業の実施
- 地産地消・飲食イベント等の実施
- 地域団体や周辺企業等と連携した取組の実施

公共施設再編による地域交流施設の整備

地域活動の拠点形成

- 柔軟な地域活動の促進
- 子どもから高齢者まで誰もが気軽に利用できる機会の創出
- 自治会活動や行事を支える機能の充実
- 多様なニーズに対応した機能配置
- 多世代交流を促す利用しやすい機能配置

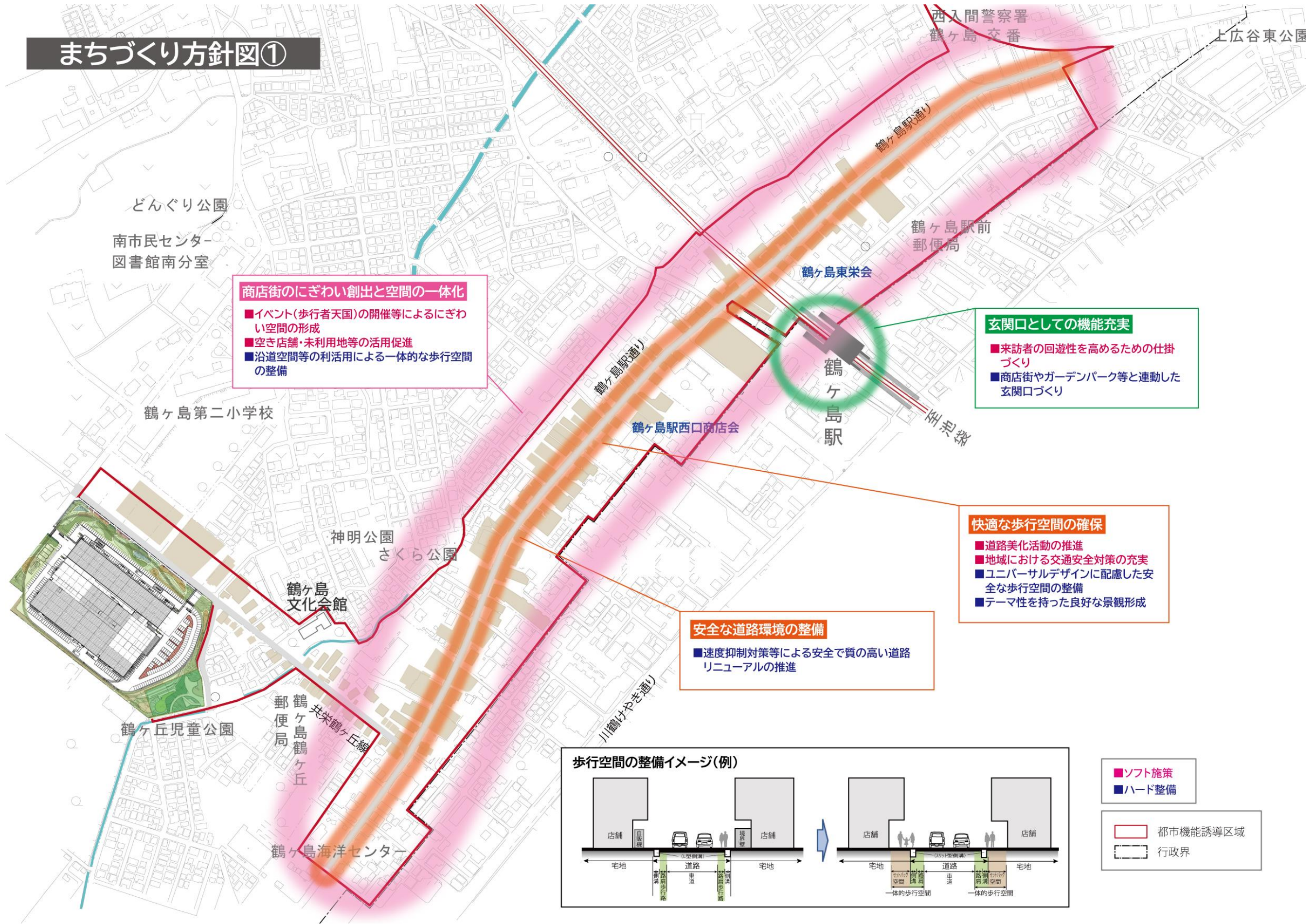
歩いて行ける身近な行政窓口の充実

- 地域福祉・健康づくりの場としての活用
- 市民センターや図書館機能の継承
- 地域に密着した市役所窓口の設置

利便性向上に向けた新たな機能導入

- 休憩スペースやカフェ機能の導入
- ガーデンパークとの一体的な活用
- 水路や水路沿いの一体的な活用

まちづくり方針図①



商店街のにぎわい創出と空間の一体化

- イベント(歩行者天国)の開催等によるにぎわい空間の形成
- 空き店舗・未利用地等の活用促進
- 沿道空間等の利活用による一体的な歩行空間の整備

玄関口としての機能充実

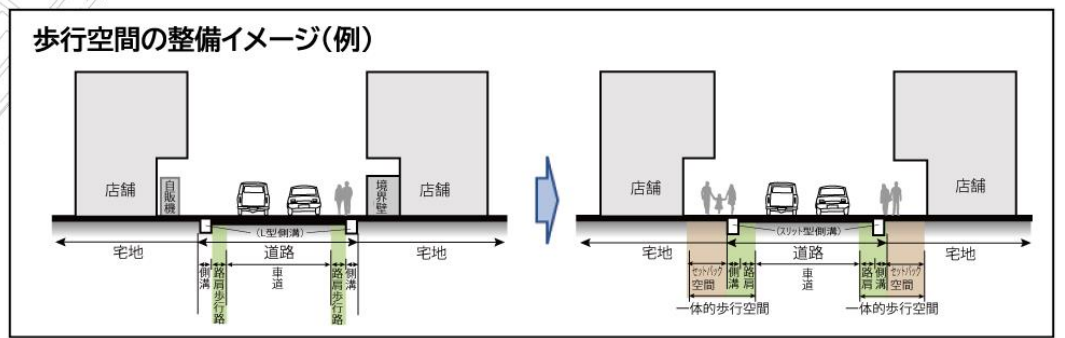
- 来訪者の回遊性を高めるための仕掛けづくり
- 商店街やガーデンパーク等と連動した玄関口づくり

快適な歩行空間の確保

- 道路美化活動の推進
- 地域における交通安全対策の充実
- ユニバーサルデザインに配慮した安全な歩行空間の整備
- テーマ性を持った良好な景観形成

安全な道路環境の整備

- 速度抑制対策等による安全で質の高い道路リニューアルの推進



■ ソフト施策
■ ハード整備

都市機能誘導区域
行政界

まちづくり方針図②

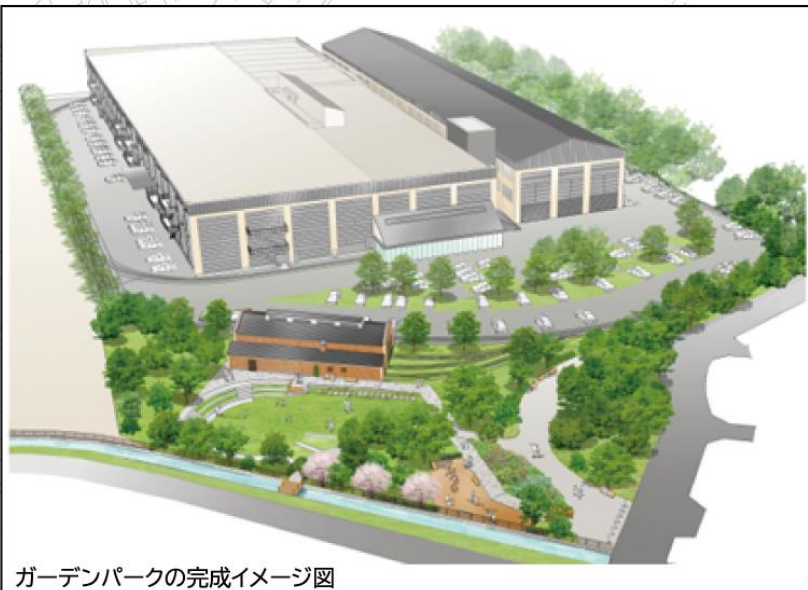
ガーデンパーク

地域住民が日常利用できる公園づくり

- 子どもから高齢者まで誰もが集える公園づくり
- 公園・緑地を活用した地域住民の地域活動や健康づくりの促進
- 誰もが快適に過ごすためのルールづくり
- 利便性向上や防犯に向けた取組
- ナチュラルガーデンの育成を通じた豊かな生活環境の創出

イベント実施等による特別利用

- 鉄道やナチュラルガーデンをテーマとした事業の実施
- 地産地消・飲食イベント等の実施
- 地域団体や周辺企業等と連携した取組の実施



ガーデンパークの完成イメージ図

鶴ヶ島第二小学校

道路整備の推進

- 安全性向上に向けた道路整備の推進

神明公園

鶴ヶ島文化会館

鶴ヶ丘児童公園

郵便局
鶴ヶ島鶴ヶ丘

鶴ヶ島海洋センター

地域交流施設

地域活動の拠点形成

- 柔軟な地域活動の促進
- 子どもから高齢者まで誰もが気軽に利用できる機会の創出
- 自治会活動や行事を支える機能の充実
- 多様なニーズに対応した機能配置
- 多世代交流を促す利用しやすい機能配置

歩いて行ける身近な行政窓口の充実

- 地域福祉・健康づくりの場としての活用
- 市民センターや図書館機能の継承
- 地域に密着した市役所窓口の設置

利便性向上に向けた新たな機能導入

- 休憩スペースやカフェ機能の導入
- ガーデンパークとの一体的な活用
- 水路や水路沿いの一体的な活用

快適な歩行空間の確保

- 道路美化活動の推進
- 地域における交通安全対策の充実
- ユニバーサルデザインに配慮した安全な歩行空間の整備
- テーマ性を持った良好な景観形成

- ソフト施策
- ハード整備

- 都市機能誘導区域
- 行政界

ミニコラム:まちづくりの潮流「居心地が良く歩きたくなるまちなか」

国土交通省は、新たな時代のまちづくりの方向性として「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成を目指し、令和元年6月にウォーカブルなまちなかの形成を推進することを発表しました。このようなまちづくりに賛同するウォーカブル推進都市は全国336都市(令和4年11月時点)に達しており、多くの都市において、まちなかを車中心から人中心の空間へと転換する取組が進められています。

《居心地が良く歩きたくなるまちなかのイメージ》

居心地が良く歩きたくなるまちなか

Walkable

歩きたくなる

居心地が良い、人中心の空間を創ると、まちに出かけたい、歩きたくなる。

Eye level

まちに開かれた1階

歩行者目線の1階部分等に店舗やラボがあり、ガラス張りで中が見えると、人は歩いて楽しくなる。

Diversity

多様な人の多様な用途、使い方

多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。

Open

開かれた空間が心地良い

歩道や公園に、芝生やカフェ、椅子があると、そこに居たくなる、留まりたくなる。



出典:国土交通省

ミニコラム:まちづくりの潮流「生活道路の交通安全対策 ゾーン30プラス」

令和3年8月から、警察と道路管理者が連携し、最高速度 30km/h の区域規制とハンプ、狭さく等の物理的デバイスの適切な組合せにより交通安全の向上を図ろうとする区域を「ゾーン30プラス」として設定し、生活道路における人優先の安全・安心な通行空間の整備を推進しています。
 令和4年7月末時点で、全国14の都市で実施しています。

《ゾーン30プラスの概要》



出典:国土交通省、警視庁

